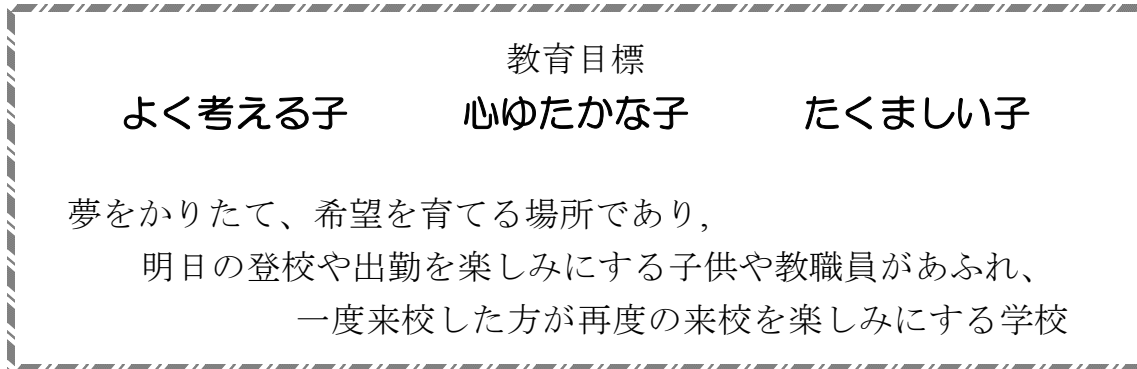


1 目指す学校像



2 基本方針

- (1) 学校経営の判断基準を、第一に「子供にとってよいか」におきます。
- (2) 指導する時の判断基準は、「生命尊重」「人権尊重」「社会性の育成」「学び方の育成」とします。
- (3) 学校運営の評価は、「子供」におき、「子供が変容した姿」で考えます。
- (4) 子供一人一人の理解に努め、よさを認め、加点的な見方で伸ばす指導をします。
- (5) 「為して学ぶ」姿勢を貫かせ、子供の小さな成長を見逃さず、認め、積み重ねていきます。
- (6) 教職員の子供を「見つめる目」「感じる心」「育てる技」を磨きます。
- (7) 組織として機能させ、実践の中から共通理解を図ります。
- (8) 信頼関係を構築するための危機管理に努めます。

笑顔かがやく八坂の子 みんなで育てる八坂の子

3 中期経営目標と方策<3～5年程度先を見据えて>

- (1) **人権尊重の精神、規範意識、奉仕の心を定着させる。**
 - ◎子供の実態をしっかりと把握し、本校「生活スタンダード」を改善し、全校的に系統的な指導・振り返りを展開する。
 - ◎生活指導基本5項目の徹底させる。(「あたりまえ」を「あたりまえのこと」として)
 - ・あいさつをしっかりする ・友達を「さん」「くん」つけてよぶ ・人の心や体を傷つけない ・危険なことをしない ・時間やさまりを守る
 - ◎あいさつ運動を充実させる。
 - ・「あいさつ名人」「八坂あいさつロード」の設定 ・あいさつ週間の強化 ・八坂中学校と豊浜小学校との共通実施
 - 道徳の時間を中心に、道徳教育の充実を図る。
 - 主体性・協調性を育む特別活動の充実を図る。
 - 全教育活動を通して、児童の自尊感情や自己肯定感を高めながら、互いのよさを認め合う指導を充実する。
 - 人の気持ちや考えを感じ取り、大切にすることができる能力を育成する。
 - コミュニケーション能力、合理的な問題解決能力を育成する。

(2) 学ぶ力を育成・定着させる。

- ◎子供の実態をしっかりと把握し、本校「学習スタンダード」を改善し、全校的に系統的な指導・振り返りを展開する。
- ◎学ぶ意欲や考える力、コミュニケーション能力、言語活動に関する能力、自ら課題をみつけ追求する態度等を高めていく指導を展開する。
- ◎学校図書館の活用や読書活動を充実させる。
- ICT機器を継続的に活用し、学習意欲・学習効果を高める。
- 学習指導要領に応じた教材・教具等を蓄積・整備する。
- 一人一人の目標をより明確化し、個に応じた指導を展開する。
- 「考える」ために必要な要素を分析し、学校として段階的に身に付けさせる。

(3) 体力の向上・健康の保持増進・安全への態度を定着させる。

- ◎体育学習を充実させる。
- ◎運動の日常化を図る。
- オリンピック・パラリンピック教育の推進
- 体育的活動の時間(金曜日の朝)を設け、継続実施する。
- 体力テストの結果の活用方法を工夫する。
- 健康教育を充実させる。〈非喫煙・薬物乱用防止・食育・心の健康・生活習慣病予防等〉
- 安全教育を充実させる。〈生活上の事故防止、防犯、交通安全、防災等〉

(4) 学校改善を推進する。〈学校力・組織力の強化、地域・保護者との連携強化〉

- ◎「教育計画」の充実・活用
 - 年間の学校の動きがより詳しくわかる冊子作り
- ◎学年会の充実
 - ・週1回以上実施し、各学級の情報の共有、指導の方向性統一を
 - ・教材研究の分担、指導資料の共有・蓄積
 - ・交換授業、交流授業、合同授業の活発化
- ◎「ふるさと八坂小」の意識を構築し、地域の教育力・資源を生かした活動の推進
 - ・学習ボランティアの活用（積極的に呼びかける）
 - ・ゲストティーチャーのリスト作成・活用
 - ・地域活用マップ、リストの作成（自然・設備・行事など）
 - ・地域行事への参加（潮干狩り・川遊び・野外活動・地区祭・八坂の集いなど）
- 運営委員会の充実
 - ・事案処理はポイントを絞り最小限に。
 - ・行事準備に関する連絡調整を行い、円滑な実行を目指す。
- 事案の流れの効率化
 - ・担当→主幹→素案配付〈ほとんどのものは教育計画に入れておく〉→
学年会→各部署で修正→必要があれば運営委員会で調整、校長決済
→職員会議で確認
- 各組織の活性化

- ・アクションプラン（年間活動計画）作成し、いつまでに、だれが、なにを、どうする を明確にして活動する。

○情報発信の活発化

- ・全学級で学級通信、予定表等を発行する。（2週に1回程度以上）
- ・ホームページを月2～3回以上更新

○夏季補充教室の充実

- ・保護者・地域の人材活用を図る。

○安全性と環境美化の確保

- ・定期的な点検（複数で巡回）、美化・整備作業の実施

4 今年度の達成目標と方策

(1) 児童の学ぶ意欲を高める。

◇児童アンケートで学ぶ意欲の高まりを8割以上が実感できることを目指す。

※研究を受け身で行うのではなく、児童の学習や活動への意欲を高めるために効果的な方策を、試行しながら模索し、まとめていく。

<研究授業6回、一人1授業>

- ・どうすれば意欲や学ぶ力が高められるか。
 - <目標は？学習過程は？教材は？しかけは？振返りは？どう工夫するか>
 - <興味・関心を引くか？わかりやすいか？技能・学び方は？>
- ・教材、教具、資料、記録を残し、次年度も活用する。<記録場所の明確化>

(2) 体力の向上や健康・安全教育の充実を図る。

◇児童アンケートで、運動への意欲の高まりを8割以上が実感できることを目指す。

※体育学習の質的向上を図る。

- ・通常の体育学習を意欲や学び方、技能が身に付くものとするよう改善する。
 - （平成21・22年度研究紀要、指導計画作成資料等を参考に）
- ・体育科における学習規律、集団行動の徹底
- ・自分に合っためあてをもち、追求していく学習の展開(課題解決的学習)
- ・学び合う姿勢を身に付ける学習の展開
- ・価値ある運動教材の選択
- ・意欲を高め、体力や技能を高める場の設定と工夫
- ・用具や学習カード等の整備
- ・体力テスト結果を踏まえた指導の工夫

※体育的な活動の充実を図る。

- ・定期的な体育的活動の時間の設定
- ・持久走大会、なわとび週間の充実
- ・遊具等の検定表の作成・活用
- ・休み時間、放課後等の運動の活発化と日常化への取組や遊びの紹介
- ・夏季水泳指導の体系化、統一化
- ・持久走、なわとび、水泳等の目標カード、検定表の活用

※安全・健康に関する教育を進める。

- ・防災教育の充実
 - *自分の身は自分で守る指導の徹底 *地震発生時の具体的対応の指導
 - *防災訓練の改善 → 地域との連携
- ・児童による安全マイマップ作りの実施<3学年の実態に応じた内容で実施>
- ・安全指導の全学年系統的な実施<生活安全・交通安全・災害安全>
- ・薬物乱用防止、非喫煙、生活習慣病予防、心の健康作り等の学習の実施
- ・セーフティ教室の充実

(3) 豊かな心の育成を図る。

★児童アンケートで、自分の行動の変容を8割以上が実感できることを目指す。

※八坂小「生活スタンダード」に沿って指導実践と振り返りをし、徹底していく。

低中高ごとに「校内生活」の指導事項を統一的、段階的に指導する。

◎全員「あいさつ名人」を目指した声かけ、指導を推進する。

◎人権について発達段階に応じた指導を積極的に推進する。

具体的学習内容と身につけるべきスキルについて、学校全体で系統的に活用できるよう検討していく。

◎生活指導基本5項目について児童への意識化、指導の改善を図る。

- ・振り返りカードを作成し、児童・職員ともに1～2か月に1回活用する。
- ・成果・改善点を確認し、改訂していく。

○「心のノート」を活用した授業を推進する。

○「東京都道徳教育教材集（「特別の教科 道徳」移行措置対応）の活用を図る。

○道徳授業公開講座の充実を図る。

- ・指導案を学年で作成・検討し、教材を整備する。

○特別活動の改善、活性化を図る。

- ・平成25・26年度の校内研究の成果を生かして児童会活動、学級活動、クラブ活動、学校行事のねらいや活動の具体例を明確化し、蓄積していく。
- ・児童会によるあいさつ運動を見直し、より充実させる。
- ・奉仕体験の取組について検討する。

(4) 学ぶ力の育成を図る。

★児童アンケートで、学ぶ力の向上を7割以上が実感できることを目指す。

※八坂小「学習スタンダード」に沿って指導実践し、練り上げていく。

- ・昨年度の校内研究の成果を生かして、低中高ごとに「話し方・聞き方・調べ方・まとめ方」の内容を統一的、段階的に指導し、成果と改善点を確認し、改訂していく。

◎授業改善、指導法改善を進める。

- ・児童の関心、意欲を大切に学習活動の工夫
- ・考え、話し合い、深め合う活動の充実
- ・語彙を増やす活動の工夫＝漢字、言葉、ことわざ、慣用句等の練習 視写、音読、読書、語り
- ・表現力を高める工夫＝スピーチ、ディベート、ポスターセッション、新聞作り、ミニ文 日記
- ・小集団による学び合い活動の導入<中・高学年>
- ・児童の「学習の振り返り」や保護者による授業アンケートの活用

- ・体験的な活動や課題解決的な学習の積極的な導入
 - ・ALTを活用した外国語活動の充実<高学年35時間>
 - ・習熟度に応じた学習資料、練習問題、ドリル等の整備
 - ・生活科、総合的な学習の時間の見直し
 - 1～2年の年間計画の見直し
 - 3～6年を見通した計画の見直しと整備、外国語活動の実施
- 各学年の中心テーマを設定し、重点的に実施する。
- 3年=地域、安全、自然 4年=福祉、人権 5年=環境、産業 6年=伝統、職業、世界
- *各学年共通=・コンピューターリテラシー・情報モラル教育・食育
- 安全教育(安全・防災マップ作りを含む)

◎「考える」ことに必要な項目の分析を進め、段階的に指導する。

- <分析例>・変化や特徴に気が付く。・物事に関心を寄せる。・問題や課題を見出す。
- ・原因を分析する。・資料を収集、整理、活用する。・論理的に思考する。
 - ・思考のための知識や語彙を身につける。
 - ・体験や経験(読書等による間接体験も含む)を豊富にする。

○「週ごとの指導計画」の改善・活用を図る。

- ・目標、活動内容、評価の重点、指導上の工夫、学級の様子、個人の変容、指導
- や対応上の配慮、指導結果の記録等のうち数項目を適宜記入する。

○ICT器機活用した授業を各学級で継続的に行う。

○学校図書館支援員と連携し、学校図書館の活用を図る。

<年間5単元以上、調べ学習・図書館ラリーなど活用した学習を実施する。>

(5) 学校組織の改善や個の力の強化を進める。

○自己の長所や課題を明確化し、目標をもつ。<自己申告書等を活用>

資質に関する一覧表、経験年数別身につけるべき力一覧、

ITC活用チェックリスト、人権感覚チェックポイント等を活用

○資質や力量の向上を自ら図る。

各種研修受講、文献・先行研究事例集の研究、自主研修、
先輩等に指導を仰ぐ

○学校組織等の改善について検討する。

内部評価や各組織の記録、反省等から

事務・区職員等を含む分掌の見直しと改善

○学校事務の適正で効率的効果的な実施

◆事務職員・学校事務の中核として、予算・執行・経理・施設・備品・消耗品

給与・旅費・福利厚生等に関する業務を行う。

- ・学年会計、給食会計への指導・支援等を行う。
- ・副校長と連携し、調査回答、各種通知等の印刷・発送等を行う。
- ・交換便、メール等の収受・整理等を行う。
- ・給食会計事務を確実にを行う。(未納の防止・解消)
- ・学年会計事務を適正に実施する。(会計簿の作成)

○学校給食の充実＜安全でおいしく、バランスのよい給食の実現＞

- ◆学校栄養補助員・献立の研究と作成、指導資料の作成、給食だよりの発行
確実な発注、支払、書類整備などを行う。
- ◆調理員・人間関係を構築しチームワークを高め、安全・確実な作業を行う。
学校栄養補助員と連携し、給食内容の充実を図る。
・安全な食材の確保、食中毒防止、異物混入等の事故防止を徹底する。

○用務業務責任者、作業者と連携した学校環境の整備・美化の推進

- ・校内環境の整備・美化の中核として、関連作業を行う。
- ・リサイクル、廃棄物等に関する作業・指導・支援を行う。
- ・教職員・事務職員等と連携し、施設設備・物品の安全管理、補修、作成、設置等を行う。
- ・来客接待、物品受入、搬送等の作業を行う。

5 いじめ・体罰への組織的な対応

- 人との温かいかわり方を身に付けさせる。
 - ・「いじめをしない、させない」という意識を集団全体で高める。
 - ・人を大切にしない言動を許さず、よい言動を実践させる。
 - ・Q-Uテストによる実態把握と結果に応じた指導の実施。
 - ・ソーシャルスキルトレーニングの実施。(ノウハウを学んでいき、実態に応じ実施する。)
- 特別支援教育を推進する。
 - ・特別支援教育コーディネーターを核にして、スクールカウンセラー、心のふれあい相談員との連携を強める。
 - ◆スクールカウンセラー・心のふれあい相談員は、経営計画に基づき、教職員との連絡調整を密にとり、児童・保護者との相談活動、教職員への指導・助言を適宜行う。→「みんなで育てる八坂の子」
 - ・特別支援教育の校内体制を確立し、ケース会議を開催する。
 - ・個に応じた指導方法の工夫を収集・蓄積し、校内に広め、実施していく。
- 指導するときの判断基準（3 学校経営方針（2））、子供をほめる観点と叱る観点を明確にするとともに、専門職として誇りをもつ教師の姿勢（期待する教師の姿）を明示する。

6 オリンピック・パラリンピック教育の推進

- オリンピック・パラリンピック教育の授業計画を立てる。
 - ・4つのテーマと4つのアクションにおいて、取組めそうな内容を洗い出すとともに、オリンピック・パラリンピック教育の授業計画を立てる。
- 夢や理想を目標に掲げ、強い気持ちをもってその達成に向けて努力し、行動できる力を育成する。
 - ・パラリンピアンのお話を聞き、スポーツの醍醐味やアスリートの卓越した能力を知り、障害者スポーツへの理解を深める。
 - ・元オリンピック選手をゲストティーチャーに迎え、授業を行い、その授業からアスリートの卓越した能力を知るとともに、スポーツへの興味・関心を高める。
- 「世界ともだちプロジェクト」を通して、世界の多様性を知り、様々な価値観を尊重することの重要性を理解させる。

- ・指定されたグループ（オランダ王国・トルコ共和国・トリニダード・トバゴ共和国・ソマリア共和国・シンガポール共和国）について、「学ぶ（知る）」機会と捉え、調べ学習等を通じて、幅広く学んでいく。

7 今年度の数値目標

- 5（2）～（4）について、保護者アンケートをとり、「学校の取り組みについて」「児童の変容について」肯定的な評価が、昨年度より多く得られるようにする。
- 地域行事等に2回以上参加する。
 - ・地域を知る機会とするとともに、地域の方々に「地域の学校」「おらが学校」「ふるさと八坂小」としての認知を高めてもらう。
 - ・子供理解の上でこの上ない機会であると捉える。
 - （育成委員会） 潮干狩り 5 / 21（土） 川遊び（高麗川） 7 / 23（土）
野外活動（内容検討中） 11 /
 - （地域・町会） 地区祭（豊溪小） 10 / 23（日）
盆踊り 土支田八幡神社 7 / 八坂神社 7 /
八坂の集い 7 / 20
 - （学童・児童館） 子ども縁日 11月～12月（予定）
- 学級通信を月2回以上出す。＜再掲＞
- ICT器機活用した授業を、各学級で学期3回以上行う。＜再掲＞
- 学校図書館を活用した学習を、年間5単元以上実施する。＜再掲＞